

## 平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月稚魚調査 速報

### ●実施状況

平成 29 年 8 月 25 日に稚魚調査を実施した。天気は晴時々曇りで、気温 30.7～32.4℃、南の風から東北東の風 1.8～2.3m/s 後、無風であった。当日は中潮で、6 時 42 分に満潮、13 時 06 分に干潮であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

今回の調査では、4 月及び 6 月の調査で出現した種に加え、ヘダイ、ギマ、ヒイラギ、ウグイ属等が確認された。

2017/8/25	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	14 : 25～15 : 25	12 : 40～13 : 40	10 : 00～11 : 45
水温 (°C)	30.7	30.9	28.5
塩分	35.4	17.2	8.7
透視度 (cm)	21	15	24
D0 (mg/L)	12.5	12.5	6.0
D0 飽和度 (%)	187.3	187.3	86.5
波浪 (m)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
pH	8.9	8.6	7.7
水の臭気	カビ臭 (弱)	カビ臭 (弱)	無臭
備考	赤潮の発生有り	赤潮の発生有り	

注) 塩分、D0、pH の値は計器測定値。

### ●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	マハゼ (+)	シロギス (c)	ギマ (c)
	ヘダイ (r)	マハゼ (+)	ビリンゴ (c)
	クサフグ (r)	ギマ (+)	マゴチ (+)
	クロダイ (r)	ヒイラギ (+)	ヒイラギ (+)
		クロダイ (r)	エドハゼ (r)
魚類以外	アサリ (+)	ニホンイサザアミ (c)	ニホンイサザアミ (G)
	アラムシロガイ (r)	シオフキ (r)	クロイサザアミ (c)
備考			その他、ヒモハゼ、サツパ等の稚魚も確認された。

注) 表中の ( ) 内の記号は大まかな個体数を表す。

G: 1000 個体以上、m: 100～1000 個体未満、c: 20～100 個体未満、+: 5～20 個体未満、r: 5 個体未満

# お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子

	マハゼ	クロダイ	<p>地曳網では、6月調査時同様にマハゼ、クロダイが捕獲された。またその他、新たにヘダイ、クサフグを確認した。魚類以外では、アラムシログイ、アサリ、ホンビノスガイの稚貝が捕獲された。マハゼは6月調査と比較して成長が悪い個体が多かったが、クロダイは約2倍の大きさに成長していた。また、ヘダイは本調査において初めて確認された種である。</p>
		アサリ	
		ヘダイ	
		クサフグ	

## 捕獲された主な稚魚

<p><b>4月</b></p>	<p><b>マハゼ</b></p> <p>東京湾奥部の代表種。汽水域や内湾の砂泥底に生息する。主にゴカイ類を餌とする。成長とともに沿岸の深場へ移動する。1年で成熟して、産卵し死亡する。</p>	<p><b>クサフグ</b></p> <p>産卵期は5月～7月で、東京湾での産卵場は三浦半島で、例年、潮流に乗って流れ着いた個体を確認される。</p>
<p><b>6月</b></p>	<p><b>クロダイ</b></p> <p>産卵期は春から初夏で、幼魚期は内湾や沿岸域に定着する。秋冬は内湾周辺の深場で越冬をする。6月調査時と比較して、約2倍に成長していた。</p>	<p><b>ヘダイ</b></p> <p>本来、沿岸岩礁域に生息する。まれに内湾域に入るようである。産卵期は晩春。昭和61年の魚類調査開始以来初めて確認された。</p>

## 城南大橋 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子

クロダイ		ヒイラギ	<p>地曳網では、6月調査時同様にマハゼ、クロダイ、クサフグが捕獲された。その他新たに、ギマ、ヒイラギ、シログスや、お台場海浜公園でも確認されたヘダイ等を確認した。</p> <p>城南大橋のマハゼはお台場海浜公園と比較して成長が良かった。</p> <p>魚類以外では、ニホンイサザアミ、シオフキ等が捕獲された。</p>
クサフグ		ギマ	
ヘダイ		マハゼ	

### 捕獲された主な稚魚

	<p><b>ギマ</b></p> <p>東京都内湾域で、例年夏季に稚魚が確認される。産卵期は6～8月で、全長15cmくらいまで、内湾域にとどまり、以降は湾口部に移動すると推定される。</p>		<p><b>ヒイラギ</b></p> <p>ギマと同じく例年夏季に干潟域および河口部で稚魚が確認される。内湾沿岸の砂泥底に多く生息する。産卵期は5月～7月。</p>
	<p><b>マハゼ</b></p> <p>13cm以上の個体も確認された。お台場と比較して大型個体が多い要因としては、ゴカイ類やイサザアミ類等の餌生物が豊富である事が推定される。</p>		<p><b>クサフグ</b></p> <p>お台場海浜公園と同じサイズの個体を確認された。同一時期に干潟域に接岸した個体群であると推定される。</p>

## 葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子

		<ul style="list-style-type: none"> <li>ギマ</li> <li>マゴチ</li> <li>ウグイ属</li> <li>ボラ</li> <li>エドハゼ</li> <li>ヒイラギ</li> <li>ピリンゴ</li> </ul>	<p>地曳網では、6月調査時同様に、エドハゼが捕獲された。その他新たに、ギマ、マゴチ、ヒイラギ、エドハゼ、ヒモハゼ、ウグイ属等を確認した。</p> <p>魚類以外では、ニホンイサザアミが大量に捕獲されたが、6月調査時よりは少なかった。</p>
<p>ニホンイサザアミ</p>			

捕獲された主な稚魚等

<p>4月</p>	<p>ボラ</p> <p>6月調査時には確認されなかったが、4月調査時に捕獲された個体と比較すると3倍以上に成長していた。</p>	<p>6月</p>	<p>エドハゼ</p> <p>産卵期は2~5月で、一生を干潟域で生活する魚種であり、5cmで成魚となる小型のハゼである。</p>
	<p>マゴチ</p> <p>産卵期は4~7月で、例年夏季を中心に稚魚が確認される。今回、当歳魚と思われる3~7cmの個体が確認された。</p>		<p>ウグイ属</p> <p>葛西人工渚は荒川と江戸川の河口にはさまれた位置にあるため、淡水魚も確認されるが、本種は降海性のマルタ稚魚と推定される。</p>